

ばばだめ 広島サンダース

久原 大輝

第79回国民スポーツ大会に広島県代表として出場。2023年特別国体以来の出場で、その時以来の優勝を目指した。

決勝の相手は筑波大単独チームの茨城県。今年の東日本インカレを制しており、坂下純也、阿部大樹、樋口裕希の3選手の母校。カテゴリーが違う相手との試合は難しさがあがり、受けに回れば一気に流れを持っていかれる。やるべきことは、自分たちのペースを崩さず戦い続けることだ。



悔しさ胸にリーグへ

試合は相手の強烈なサーブとディフェンスに苦しめられる場面が続いた。それでも粘り強く第1セットと第3セットを取り切る。第4セットは最大4点のビハインドから、今大会主将の武智洸史選手が途中出場でコートを引き締める。先にマッチポイントを迎え、あと1点で優勝という場面まで迫ったがその1点を取れず逆転を許し、勝負はフルセットへ。

最終セットは受け身になり、勢いを止め切れず敗戦となった。正直、この敗北は悔しさしかない。

この負けをただの負けで終わらせられない。大学生が見せた思い切りの良さ、失うものを恐れない姿勢。技術や経験だけでなく、勢いをもってぶつかること。

振り返ったときに「あの負けがあったからこそ今がある」と胸を張って言えるくらい強くなりたい。(広島マナジャー)

決勝戦終了後のあいさつ(1日)